

平成 26 年度 「歩くまち・京都」 推進会議 摘録

1 日 時 平成 27 年 3 月 16 日（月） 午前 10 時～正午

2 場 所 消防局本部庁舎 7 階作戦室

3 議事内容

(1)開会

(塚口会長)

- 「歩くまち・京都」推進会議は、毎年、年度末に開催し、「歩くまち・京都」総合交通戦略の進捗管理を行っている。88 の実施プロジェクトの進行状況を確認いただき、それぞれの立場から積極的なご発言をお願いしたい。
- 今回は、これまでと違った議論が出来ると考えている。ハード面の整備が実現すると、施策の効果が実感しやすくなる。四条通の歩道拡幅、京都駅南口の駅前広場の完成がもうすぐそこまで来ているので、市民に安全快適な生活、京都が便利であることを実感してもらえと思う。より一層、効果が出てくるよう、皆様のお知恵を拝借したいと思う。

(2)意見交換

(波床委員)

- 「バスの駅」が気になっている。「バスの駅」とは何か教えていただきたい。

(事務局)

- 「バスの駅」は、バス待ち環境の改善施策の名称で、バス停の隣接地をお借りして、屋根をつける等して、快適にバスをお待ちいただけるようにしているものである。

(藤田委員)

- 一点目は IC カードについてであるが、地元の人はあまり利用していないように感じるが、一回目から割引く等の工夫があると利用が伸びるのではないか。
- 二点目は、四条通についてであるが、工事中で渋滞がひどくて困るという声を耳にするが、歩道拡幅の良い点、悪い点を洗い出す必要があるように思うがいかがか。

(事務局)

- 交通局では、平成 27 年度に、IC カードを活用した定期券や割引制度について検討を予定しており、また、京都バス、叡山電鉄も IC カードを導入する予定である。
- 四条通については、状況を確認しているが、バスの遅れも発生しており、ご不便をお掛けしている。現在工事中であるということを確認してもらうための迂回案内や、メディア等をおして、情報提供を充実させていきたい。

(塚口会長)

- 四条通の歩道拡幅は、多面的な検討を行い事業を行っている。工事中は、ある意味では社会実験という意味もあるかと思う。四条通にトリップを持たない通過交通が通りにくくなるかもしれないが、それは織り込み済みである。工事中のご不便は、交通管理者のご協力もいただきながら対応願いたい。

(藤田委員)

- 通過をご遠慮願うということであれば、他府県の方々への周知が大事だと思う。

(事務局)

- 広報活動については、近畿圏から、中部地方・東海地方へ周知を拡大している。まずは、市民への周知を行い、次にクルマでの来訪するゾーンへの周知に広げていく。さらに、例えば 2 月 4 日の東京のイベントで PR を行う等、遠方にも周知を拡大している。

(佐藤委員)

- IC カードの割引制度をつくるには、多額の費用がかかるが、費用に対する効果が交通事業者には見えないため、実現が難しい。
- 一方で、IC カードの導入は、公共交通利用者の増加につながるものであり、例えば、駐車料金を商業施設で負担するような方法で、IC カード利用者に対して、中心部の商業施設利用で運賃を割引するようなことを考えられないだろうか。そうすれば、少しでも利用者の負担感を軽減でき、結果的に利用者増加につながると思う。知恵を絞っていただきたい。

(北村委員)

- 視覚障害者の移動は、歩くことと、公共交通機関の利用が基本となる。地下鉄に可動式安全柵が出来たことはうれしい。また、設置にあたっては、事前に私達と相談しながら進めていただいたことに感謝している。全国の都市をみると、京都市ほど視覚障害者が歩いているまちはない。それほど、視覚障害者に配慮していただいているということであり、感謝したい。
- 京都市の市バスでは、系統番号の車内放送をしているが、この車内放送は全国共通ではない。他都市でもそういうことを実施すればいいと思う。改めて、交通事業者の方に支えられていると感謝している。
- 四条通については、自転車の問題がある。今は通れないが、拡幅によって歩道に入ってくることも考えられる。視覚障害者にとってはとても怖いので、そうならないように皆さんと一緒に取り組んで行きたいと思う。

(塚口会長)

- 計画段階からの視覚障害者の方々の意見をお聞きして事業を進めていることを、高く評価していただいているが、事務局の方からコメントはありますか。

(事務局)

- 我々こそ、色々なアドバイスを頂き感謝している。この先も、各地区のバリアフリーにも取り組んでいくので、今後も御協力をお願いしたい。

(塚口会長)

- 自転車の問題については、京都市はじめ交通管理者も含めて、皆が協力していく必要がある。

(小林委員)

- 四条通の歩道は自転車の通行が禁止である。現時点では、現状維持の方向で考えているが、様々な御意見もお聞きしながら、引き続き検討が必要である。

(加藤委員)

- 地下鉄に可動式安全柵が出来たので、高齢者の皆さんが安心して使えるようになった。先日利用した時は、空いている時間ではあったが安心感があった。四条通については、今は工事中であることはわかるが、バス停があちこちに移動しているので利用しにくい。この先、自家用車通行規制は考えられているか。また、タクシー乗り場は設置するのか。

(事務局)

- バス停については、16箇所のバス停を4箇所に集約する予定である。バス停をわかりやすくするため出っぱったバス停となる。タクシーについては、3〜4台並べるタクシー待ちゾーンを設置する。タクシーの乗降については、手をあげてタクシーを止めるのではなく、この部分で、乗り降りをしてもらうようにしてもらいたい。なお、自家用車の通行規制は考えていない。

(正司委員)

- 交通局は交通事業者としての役割と行政の一部局としての立場があるが、この二つを上手に切り分けないといけない。資料をみていると、京都の全体の公共交通ネットワークをよくする議論と、交通局だからできる施策がクローズアップされていたりするので、そのあたりが気になるところである。

(土井委員)

- 「歩くまち・京都」の狙いは、視覚障害者の方も含め色々な人のモビリティを高めることにある。これから人口減少の中で交通の質的な転換を図り、モビリティの向上、楽しさのあるまちをつくる、そのために公共交通を充実させていることを、もっと市民に伝えていくことが重要だと思う。
- 京都駅西部エリアでは嵯峨野線の新駅を作る合意が出来た。是非、駅を作るだけでなく、鉄道駅と合わせて、バスターミナルも設置し、公共交通の拠点となればよいと考えている。

(事務局)

- 広報活動では、人と公共交通優先の事業そのものの主旨を伝えていくことが重要と考えている。

(塚口会長)

- 京都から情報発信することは、非常に重要なことだと思う。

(山舗委員)

- 四条通については、大丸前が広がり、バス停がすごく広がっている。渋滞のことを耳にする
が、一般車両は完成したら入れないという噂が飛んでいるが、実際にはどうなるのか。以前
に一般車両を進入禁止とした実験を行っていたが、それはどういう方向を目指したものだっ
たのか。
- また、歩道が広くなると、南側と北側が近くなる。北側にいても南側がよく見えるようにな
った。歩いていて楽しいし、反対側のお店に行こうかなと思えるが、それだと横断が危ない
かなと思う。完成された時には車道と歩道の区切りをわかりやすくしてほしい。

(事務局)

- 一般車両については、四条通に御用のない方は遠慮してもらうようにしていただきたいと考
えている。社会実験の時は、バスとタクシーのみ通行可としたが、やはり細街路に影響が出
た。一般車両の進入禁止という交通規制は劇薬であり、今のところは通過交通を遠慮してい
ただく形での対応を想定している。
- 買い物をして南側と北側が見やすくなるというご意見は、新鮮な思いでお聞きした。一方で、
横断歩道以外での横断は禁止されているので、未然に防ぐ工夫をしたい。

(波床委員)

- 都心の通過交通については、一般車両の交通規制をするつもりはないとのことだが、将来的
には検討していただきたい。最近の車の運転は、ナビを利用することが多く、かなり機械
にコントロールされている。通過交通の抑制については、PR でのお願いベースだけではなく、
知らず知らずに迂回するような工夫をしたらよいと思う。
- もう一点、公共交通の運賃については、割引をすると客は十分増えるので安心できるとのデ
ータを収集して欲しい。たとえば、ふるさとバスでは、うまくいったという事例を出すと、
必ず、小規模だからうまくいったという反論が出てくる。この点、市バスで実験しデータ収
集をやれば、他の事業者もやる気になると思う。

(事務局)

- 四条通の将来的な交通規制のあり方については、完成後に交通事業者と検討してきたい。ま
た、通過交通の抑制については、デジタル業界に申し入れているところである。

(塚口会長)

- 運賃割引については、データをきちっと示したうえで進めていくことは良いと思う。

(事務局)

- 運賃割引についてご指摘いただいた点は大事なことで、データにより論理的・説得力を
もって説明しながら、信頼関係をつくっていきたいと思っている。

(岡田委員)

- 京都駅南口は、観光客、特に修学旅行客が多い場所である。修学旅行については、安全につ
いての気配りが必要であり、平成 28 年 10 月の完成までの間、観光バスをどこで受けるのか、
情報をいただければありがたい。また、待ち合いスペースは、どのようなものを教えていた
だきたい。

(事務局)

- 5 月には修学旅行生が多くなるが、建設局とも連携しながら、情報媒体も出来るだけ活用し、刻々と変わる観光バスの停車場所をお伝えしたいと思っている。また、待合スペースについては、サンクンガーデンに屋根を掛け 300 人程度が快適に集える場所として計画しており、12 月にプレオープンを考えている。

(奥野委員)

- 今朝、市長が歩いて通勤されるのを見かけた。市長自ら公共交通利用を実践されているのは、良いことだと思う。「歩くまち・京都」については、本当に進み方がすごいと驚いている。報道番組のコメンテーターをしているが、その際には、京都は先進的な取組をしているまちと評価している。ただ、日々の生活の中で感じるのは、京都駅南口を週 3 回ぐらい利用しているが、タクシーの運転手さんが駅前がどうなっているのかを知らないことがあり、情報が伝わっていないと感ずることがある。
- 四条通に関しても色々な声を聞いている。工事中であることで不確定なところがたくさんあると思うが「京都はこういう方向に向かっている、将来こういう風に完成する」ということを親切に市民に伝えていくことが重要と思う。
- 自転車も使うが、街中は走りやすくなった。また、車で走ることもあるが、ゾーンの取組でスピードが出しにくくなった。路面表示があっても路上駐車している人がいるので、そのあたりの対応が必要と思う。IC カードについては、一日の上限運賃を設定してもらえれば、安心して使えて良いと思う。

(上田委員)

- 南口について。バス停は 10 か所も必要か。また、拠点広場の南側は遠距離バスの発着場所になっていると思うが、今度、どうしていくお考えか。

(事務局)

- バス停の数は少し減ることになる。南北自由通路を少し出たところに市内バス路線を配置するなど工夫をしている。また、空港バス等は、アバンティ前に残る形で考えている。

(上田委員)

- 南口のバス停前に、格安の長距離バスが停まる時があり、それが気になっている。

(事務局)

- バス停は拠点前に集約整備するとともに、整備後の案内の方法を現在考えているところである。

(村尾委員)

- 高速バスやLCCの利用が全国的に伸びている。高速バスが使いやすくなってきており、これまでは鉄道での京都へのアクセスを中心に考えてきたが、これからは高速バスも無視できないと思う。都心から関空へのアクセス等、四条界限の高速バス停を政策的に整備することも考えてはいかがか。
- 路線バスについては、京丹後市でバス運賃 200 円を実施し、利用が 2 倍以上に増えた。しかし、同じような取り組みで宮津市などではバス利用は 1.5 倍に増えたが、収入は 7 割に止まっ

た。これは、京都丹後市ではマーケティングを徹底したからであり、単に料金を下げただけでは税負担が増加するだけとなる。運賃割引だけは限界であり、割引と同時にサービスをよくすることが必要である。

(塚口会長)

- バスの利用者を増やして、収支をよくする工夫、その中に割引があるということであり、検討する価値が高いと思う。

(松中委員)

- この会議の基本的な役割は 88 プロジェクトの推進状況を把握することである。一方で、88 の実施プロジェクト以外にも新たな取組も進んでいる。この点については、分けてお示しいただければ分かり易い。特にシンボルプロジェクトに関しては、たとえば、四条通は歩道を拡幅して終わりではないと思うので、今後のことも含めて、説明していただければと思う。
- もう一つ、歴史的都心地区についての乗継割引の検討があったが、鉄道だけではなく、バスも含めて考えるとよいと思う。

(内藤副会長)

- 京都市がここまで取り組んできたことは自慢していいと思う。しかし、観光シーズンの自動車の問題もあり、思い切った質的な転換の覚悟がさらに必要である。もうひとつは、地球に優しい低炭素のまちづくりという面からも、脱クルマ社会を京都から発信することを目指して更に努力してほしい。

(塚口会長)

- 大変多くのご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見を活かしながら進めて行きたいと思う。
- これで本日の議事を終了します。ありがとうございました。

(3)閉会

(小笠原副市長)

- 本日は、年度末の大変お忙しいところ、熱い、貴重なご意見をいただきありがとうございました。冒頭にございましたようにハード事業の南口整備、四条通の歩道拡幅が出来つつある中で、もう一度、「歩くまち・京都」そのものの理念を考える場所であったと思う。いずれも事業者の方、関係者の方、住民の方に色々なお願いしてここまでたどり着いた。全国的にも珍しい施策を進めており、少しでもいいものにしていくため、これからもご意見をいただき、前に進めていきたいと思っている。この会議に限らず、引き続きよろしくお願いする。